

和歌山大学教育学部音楽専攻生による現代音楽コンサート vol.2

2014年度クリエミッション報告書

ミッションメンバー

伊東真吾、小田原聡志、奥出遥香、川端彩子、  
園部修子、横河千裕、島田 茜、長戸かおり、東山恵里芳  
尾崎 綾、岡本舞衣乃、英 愛加里

指導教員 小寺香奈

## 1 背景と目的

このミッションの目的は、2015 年 1 月 11 日（日）に「和歌山大学教育学部音楽専攻生による現代音楽コンサート vol.2」と題する、現代音楽の作品のみを扱った演奏会を開催することであった。

主な特色は2点あげられる。1点目は現代音楽作品のみを扱う点である。現代音楽とは主に1950年以降の西洋芸術音楽を指す。我々と同じ時代・社会に生きる作曲家の作品であることや、場合によっては作曲家と直接コンタクトをとりながら演奏研究を進められることなど、様々な点においてそれ以前の時代の音楽とは違った意義と重要性をもっている。それにもかかわらず、現在の大学のカリキュラムではほとんど触れられることがなく、また演奏される機会も非常に限られていて、そのほとんどが東京に集中している。このような現状であるため、学生が現代音楽について学習し、現代音楽のみで構成されたコンサートを和歌山で開催することには大きな意味がある。

2点目は、そのような作品を、将来音楽教育に携わる学生が教員とともに、立案から構成、運営まで総合的に行うという点である。演習の参加者は音楽科の教員志望の学生である。ここでコンサートの企画から広報、演奏までを総合的に経験することは、将来教員として授業の構成や発展的な音楽活動の展開、また学校・学級運営などを行うにあたって活用できる能力及び資質を獲得するうえで非常に有益である。

現代音楽に意欲をみせる学生が集まり、プロの奏者として現代音楽の演奏経験豊富な教員の指導を仰ぐこともまた学ぶことが多かった。難解と捉えられがちで、学校教育の中でもほとんど触れる機会のない現代音楽を、分かりやすい形で地域に紹介するというこの取り組みは、他にほとんど例のない、非常に意欲的かつ先駆的な取り組みであるといえる。

## 2 活動内容

### 2.1 作品研究

- ・コンサートの目的にかなった作品の選曲
- ・コンサートで取り上げる現代音楽作品について学生同士での勉強会の開催
- ・現代音楽の演奏会の鑑賞
- ・本番までの定期的な練習と指導教員によるレッスンの実施
- ・演習としてプレ・コンサートや学内発表会の企画・開催

### 2.2 運営

- ・会場の予約等、設営の手配
- ・広報活動として、ポスターの制作や掲示、各所へ案内状の送付、ブログなどの SNS、新聞やラジオなどのメディアを使用して宣伝活動

### 2.3 演奏会の実施

上記の一連の活動の集大成として 2015 年 1 月に「和歌山大学教育学部音楽専攻生による現代音楽コンサ

ート vol.2」を実施

### 3 結果・成果

#### 3.1 当日のプログラムより

演奏会タイトル：和歌山大学教育学部音楽専攻生による現代音楽コンサート vol.2

ジョン・ケージ *John Cage* (1912–92)

ソナタとインターリュード *Sonata and Interludes* (1946–1948)

「音を一切鳴らさない音楽」《4分33秒》(1952)で、音や音楽を聴くことの意味を世に問うた作曲家ジョン・ケージはきのこの研究家としても世に知られている。彼の作品や創作の思想は、特に第二次世界大戦以降数十年にわたってアメリカのみならず世界中の芸術創作活動に影響を及ぼしたといっても過言ではないだろう。当日演奏した《ソナタとインターリュード》を含むケージの三作品は、どれも1940年代に作曲されたものであるが、これらの作品は「偶然性の音楽」という彼の思想が展開される前のものであり、走者が演奏する音符はすべて従来の五線譜上に書かれている。《ソナタとインターリュード》は、彼が1946年から1948年にかけて作曲した、プリペアド・ピアノのための作品。16曲の「ソナタ」と4曲の「インターリュード」の全20曲から成っており全体はほぼシンメトリカルに構成されている。当日はその中から11のソナタと2つのインターリュードを前半と後半にわけて演奏した。プリペアド・ピアノとは、ピアノの弦にネジやボルト、ゴムなどを挟み込んでまるで打楽器のような音色に変化させる技法であり、ケージが発明した。

ジョン・ケージ *John Cage* (1912–92)

18回目の春を迎えた美しい未亡人 *The Wonderful Widow of Eighteen Springs* (1942)

クローズド・ピアノと声のための作品。自らを発明家と呼んだケージは作品で様々な実験を試みた。この作品ではピアノの蓋は閉じたままで、ピアノ本体の決められた場所を手の平やげんこつで叩いてリズムを奏する。声のパートは3つの音のみで書かれており、ジョイスの「フィネガン前夜祭」の歌詞を切り刻んで使用している。ヴィブラートなしで、民謡のように歌う、という指示がある。

モートン・フェルドマン *Morton Feldman* (1926–87)

ラスト・ピース *Last Pieces* (1959) Slow–Fast–Very Slow

ケージと同世代にアメリカで活躍したニューヨーク生まれの作曲家。図形楽譜を発案したこと

でも知られる。フェルドマンはケージから強い影響を受けたといわれているが、ケージもまた彼の作曲から影響を受けて様々な実験を行った。フェルドマンの音楽の特徴は、極端に点描な様式と強弱変化の少なさであり、それゆえに非常に静謐な音楽が展開される。

《ラスト・ピースーズ》は、「自由リズム記譜法」で書かれている。楽譜には音高（符頭）だけが示されており、音の長さの決定は奏者に任されている。ただし、**Slow**、**Fast** といった全体的なテンポの指示があるので、奏者はこれらを頼りに音の長さを決めながら音を紡いでいく。当日は4つのセクションから成るこの作品の3つ目までを演奏する。

フレデリック・ジェフスキー *Frederic Rzewski* (1938–)

パニユルジュの羊 *Les Moutons de Panurge* (1980)

アメリカの作曲家、ピアニスト。1960年代にはドイツをはじめヨーロッパ各地で現代音楽の演奏者としても活躍した。《パニユルジュの羊》は不特定の旋律楽器群のための作品で、65の音符からなる旋律の構成音それぞれの上に番号がふられ、それらを規則にしたがって(1,1-2,1-2-3,1-2-3-4…という具合)奏者全員がユニゾンで演奏するもし間違いが生じてそのまま続けて他の奏者と一緒になろうとしない、という規則があるため、意図せざる間違いが旋律のずれとなり、いわば即興的な音群が生まれるという仕掛けの作品。当日は発音の原理の異なる4つの楽器を選んで演奏することにした。

ジョン・ケージ *John Cage* (1912–92)

リビング・ルーム・ミュージック *Living Room Music* (1940)

*I.To Begin II.Story III.Melody IV.End*

《リビング・ルーム・ミュージック》(居間の音楽)は、文字通り居間にある家具など日常生活のなかの道具を演奏に使用する。楽譜には棚、机、雑誌など演奏に使用すべき物が複数指定されている。当日の演奏では、ケージの指定した道具をもとに、いくつかの現代の生活のなかで使用されているプラスチック製品や日本の家庭によくある陶磁器なども使用する。リズムや素朴なメロディーで構成される親しみやすい作品。視覚的にも楽しめる作品である。

モートン・フェルドマン *Morton Feldman* (1926–87)

デュレイションズⅢ バイオリン、チューバ、ピアノのための

*Durations 3 for violin, tuba and piano* (1956)

*I.Slow II.Very Slow IV.Fast*

《ラスト・ピースーズ》同様「自由リズム記譜法」で書かれたフェルドマンの初期作品。デュレイションズのシリーズはそれぞれ編成の異なるアンサンブルのために5つ書かれている。一つ一つの音の長さは奏者それぞれが決定するため、3つのパートで3通りの音の持続(デュレイションズ)の選択が許可されており、それが重なって一つの音響が生み出される。曲は4つの楽章から

成るが、当日はⅢを除いて演奏した。チューバのパートはユーフォニアムで演奏した。

ヘルムート・ラッヘンマン *Helmut Friedrich Lachenmann* (1935ー)

ギロ *Guero* (1969)

ドイツを代表する現代音楽の作曲家の一人。既存の楽器の様々な特殊奏法を開発、駆使してオーケストラやアンサンブルで独特の音響を作り出している。ピアノ独奏のための《ギロ》は、ピアノを打楽器のギロに見立てた作品で、鍵盤や弦やチューニングピンに指の爪を滑らせて音を発生させる。非常に小さな音の作品である。音とともに奏者の動作もあわせて鑑賞することで作品の面白さを味わうことができる。

### 3.2 当日の様子

来場者数は150人あまり。演奏会のゲネプロから本番、終演まで時間通りに進めることができた。休憩時間にプリペアド・ピアノをお客様が間近で見ることができるよう配置しとこと、また当日演奏した作品の楽譜を展示しご覧いただけるようにしたことはお客様からも好評であった。今回のメインであるプリペアド・ピアノの演奏について「不思議な音色は魅力的でした」「ピアノの弦の間に釘や消しゴムなどを入れることによって、いろんな音色が聴くことができ、心地よかった」などの好評をいただいた。演奏会の撮影は「クリエイション映像制作プロジェクト」様に協力をいただいた。右は今回の演奏会の宣伝用フライヤーの表面である。

和歌山大学教育学部音楽専攻生による  
**現代音楽コンサート** volume 2  
音楽ならではの、音楽だけでなくより静か? 和歌山大学、オール現代音楽プログラム第2弾!

Program

ジョン・ケージ John Cage (1912-92)  
ソナタとインターリュード  
Sonatas and Interludes

リシケル・ルーム・ミュージック (1943)  
Living Room Music

18回目の春を迎えた美しい未亡人 (1942)  
The Wonderful Widow of Eighteen Springs

フレデリック・ジュフスキー Frederic Rzewski (1938)  
パニョルジュの羊 (1969)  
Mouton de Panjurg

モートン・フェルドマン Morton Feldman (1926-87)  
ラスト・ピースーズ (1958)  
Last Pieces

デュレイションズⅢ  
バイオリン、チューバ、ピアノのための (1961)  
Duration 3 for violin, tuba and piano

出演

第1期生 奥出遥香 川端彩子  
4期生 園部修子  
3期生 名田青麻 横河千裕  
伊東真吾 長戸かおり  
2期生 尾崎綾  
教員 山名敬之 (和歌山大学教授)  
小寺香奈 (和歌山大学准教授・講師)

2015  
1.11 日  
14:30開場  
15:00開演

和歌山の浦アートキューブ キューブA  
入場無料 (任意自由)

このコンサートは和歌山大学教育学部音楽専攻生(1942)における「現代音楽」の歴史を振り返るべく、今年度初めて開催される。

和歌山大学教育学部・小寺研究室 4-6-26 Centerにて開催予定  
Tel: 073-457-7354 (Mail: colorosa@center.wakayama-u.ac.jp)

### 4. 今後の課題とまとめ

2013年1月15日に第1回目の現代音楽コンサートを行ったが、今回はメンバーが異学年であったこと、演奏と事務作業の両立が難しかったことにより運営が円滑に進まない部分が多くあった。また、出演者とスタッフとの演奏会に対するモチベーションが大きく異なったことも運営が円滑に進まなかったことの原因であると考えられる。したがって、運営に際してはより積極的にコミュニケーションを取り合っ

## 2014年度クリエミッション報告書

て作業を進めていくことを今後の課題および目標とする。チラシのデザインや練習計画の話し合いをスマートフォンのアプリ「LINE」を使って行ったことについて、便利であるが意思が伝わりにくいといった不便さがあった。そのため、可能な限りメンバーが集まって話し合いを行う機会を多く持ちたい。

演奏面については演奏技術の向上や、楽曲やその背景についての研究、練習体制の工夫などにおいて私たちの未熟さを感じた。したがって、引き続き私たち学生自身の演奏技能の向上と、音楽全般への更なる学習の必要性を強く感じた。

演奏会の運営を一から行うことで演奏会運営の大変さを感じた。演奏会の準備段階においてどういった段取りで演奏会を運営していくべきであるか、どのような作業が必要となるか、ということについて考えることは経験が浅い私たち学生にとっては難しいと感じた。そのため、多くの場面で指導教員の支援・指導をいただく場面があった。今回の演奏会の活動記録は資料としてファイリングして保存し、今後の諸演奏会の運営などで役立てていきたい。当日行ったアンケートでは、お客様から「第3回目を楽しみにしている」といった声を多数いただいたので、今後も継続していくことを目標としたい。

# 和歌山大学教育学部音楽専攻生による 現代音楽コンサート

音楽なのに見て楽しい、音楽だけどなにより静か？ 和歌山大学発、オール現代音楽プログラム第2弾!

volume

# 2

作品の解説を  
交えながらの  
コンサートです。

## Program

ジョン・ケージ John Cage (1912-92)

**ソナタとインターリュード** (1946-48)

Sonatas and Interludes

**リビング・ルーム・ミュージック** (1940)

Living Room Music

**18回目の春を迎えた美しい未亡人** (1942)

The Wonderful Widow of Eighteen Springs

フレデリック・ジェフスキー Frederic Rzewski (1938-)

**パニユルジュの羊** (1969)

Mouton de Panurge

モートン・フェルドマン Morton Feldman (1926-87)

**ラスト・ピースーズ** (1959)

Last Pieces

**デュレイションズⅢ**

**バイオリン、チューバ、ピアノのための** (1961)

Durations 3 for violin, tube and piano

ほか

※プログラムは変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。

## 出演

- |      |                    |       |
|------|--------------------|-------|
| 院1回生 | 奥出遥香               | 川端彩子  |
|      | 園部修子               |       |
| 4回生  | 名田青麻               | 横河千裕  |
| 3回生  | 伊東真吾               | 長戸かおり |
| 2回生  | 尾崎綾                |       |
| 教員   | 山名敏之 (和歌山大学教授)     |       |
|      | 小寺香奈 (和歌山大学准教授・解説) |       |

2015

# 1.11

日

14:30開場  
15:00開演

## 和歌の浦アートキューブ キューブA

入場無料(全席自由)

●お問い合わせ

和歌山大学教育学部・小寺研究室 ※なるべくe-mailにてお問合せ下さい。  
Tel 073-457-7354 Mail coteraka@center.wakayama-u.ac.jp

この演奏会は和歌山大学協働教育センター(クリエ)における「2014年度クリエプロジェクト・ミッション」の活動(指導:小寺香奈)として行われています。  
<http://www.crea.wakayama-u.ac.jp>

# 和歌山大学教育学部音楽専攻生による 現代音楽コンサート volume 2

音楽なのに見て楽しい、  
音楽だけどなにより静か？  
和歌山大学発、  
オール現代音楽  
プログラム  
第2弾！

和歌山大学発現代音楽コンサートシリーズ第2弾、今回は  
ジョン・ケージがプリペアド・ピアノのために書いた傑作、

《ソナタとインターリュード》に挑みます。ケージが発明した「プリペアド・ピアノ」は、当時バレエの伴奏をつとめていた彼が、狭い会場でピアノ一台に打楽器アンサンブルの代わりができないかと試みたことがきっかけで生み出された技法。グランド・ピアノの弦の間にねじやゴム、金属などを挟み込み、本来のピアノの音色とは全く違う、まるで打楽器のような音色に変えてしまいます。その独特で繊細な響きはCDなどでは決して味わうことのできない魅力的な音響で、一度聴いたら虜になってしまうほど。生では滅多に聴くことのできない作品ですのでどうぞお楽しみに！他にも、鍵盤の蓋を完全に閉じたグランドピアノ（クローズド・ピアノ）と声のための《18回目の春を迎えた美しい未亡人》、棚、机、雑誌などあらゆる日常生活の道具を使って演奏する《リビング・ルーム・ミュージック》など、ケージの1940年代の作品2曲もあわせて演奏します。また、ケージと親交のあったアメリカの作曲家、モートン・フェルドマンの初期作品も2曲取り上げます。フェルドマンの音楽の特徴はその音の少なさとそれ故の非常に静謐な音楽といえるでしょう。音や音楽を聴いていながらしかし、音楽とは一見矛盾しているようにみえる無音、沈黙、静けさといったものも音楽として感じ取ることができます。《ラスト・ピース》、《デュレイションズⅢ》ともに、音高と全体のテンポの指示（速い、遅いなど）はありますが、リズムは楽譜に書かれていないため、音の長さの決定は奏者に委ねられています。

コンサートは解説を交えながら、また今回はそれぞれの作品の楽譜やプリペアド・ピアノの内部もご覧いただく予定です。

会場で一緒に観て聴いて楽しんでみませんか。

出演者プロフィール（和歌山大学教育学部音楽専攻生有志）



院1回生  
奥出遥香  
(おくで はるか)  
→ソプラノ



院1回生  
川端彩子  
(かわはた さいこ)  
→ピアノ



院1回生  
園部修子  
(そのべ しゅうこ)  
→バロック・バイオリン



4回生  
名田青麻  
(なだ せいま)  
→ピアノ



4回生  
横河千裕  
(よこがわ ちひろ)  
→ピアノ



3回生  
伊東真吾  
(いとう しんご)  
→トランペット



3回生  
長戸かおり  
(ながと かおり)  
→ピアノ



2回生  
尾崎綾  
(おさき あや)  
→クラリネット

教員プロフィール



山名敏之(やまな としゆき) →クラヴィア  
東京藝術大学音楽学部器楽科（ピアノ専攻）、オランダ・スウェーデン音楽院卒。ピアノを安川加寿子、ヴァレム・フロンスの各氏に、フォルテピアノをスタンリー・ホーランド氏に師事。NHK「びあ のピア」第11回・第14回、リクエスト特集および「特集 完全保存版 びあ のピア」に出演。2014年4月CD「ハイデンと18世紀を彩った 鍵盤楽器たち」をリリース。レコ芸（特選盤）、朝日新聞（推薦盤）、音楽の友（注目盤）、ショパン（CD pick up）、音楽現代（推薦盤）と各紙で高く評価されている。和歌山大学教育学部教授。



小寺香奈(こてら かな) →ユーフォニアム  
東京藝術大学卒業、及び同大学大学院修了。ヤマハ新人演奏会出演。埼玉県警察音楽隊を経て、現在はソロのほか、国内主要オーケストラ、吹奏楽団のエキストラ、室内楽、また管楽器指導などで活動中。2013年度海外派遣により、ドイツ、ケルンに留学。アンサンブル・ムジーク・ファブリック、ケルン音楽大学現代音楽研究所で研鑽を積む。VIVID BRASS TOKYO、Tuba-labo、如月四重奏団、MOCK ensemble 各メンバー。上野学園大学非常勤講師、和歌山大学教育学部准教授。



## 和歌の浦アートキューブ

〒641-0022 和歌山市和歌浦南3丁目10番1号 TEL:073-445-1188 FAX:073-445-1189

●お車でのお越しの方は、恐れ入りますが万葉館駐車場(1回400円)をご利用ください。

- 交通のご案内
- 阪和自動車道「和歌山 IC」よりお車で 約20分・約10km
  - 南海電鉄「和歌山市駅」よりバス 約25分(「新和歌浦」行き、「不老橋」バス停下車)
  - JR「和歌山駅」よりバス 約25分(「新和歌浦」行き、「不老橋」バス停下車)

